

校長		教頭	
----	--	----	--

管理会計 シラバス

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科
管理会計	2	3	全	選択	会計科

1 概要及び目標

- (1) 管理会計に関する知識と技術を習得させ、経営戦略の重要性について理解させるとともに、経営管理に必要な情報を活用する能力と態度を身につける。
- (2) 経営管理に必要な情報を活用する能力と態度を育てる。

2 使用教科書・教材

- ・教科書：管理会計（実教出版）
- ・副教材：管理会計問題集（実教出版）

3 授業の展開と形態

教材を活用しながら教科書で解説し、問題演習を行う。一斉授業・グループ形式の両方を組み合わせて行う。

4 学習方法

- (1) 定期的の小テストを実施して学習の定着を確認しながら授業を進めていく。
- (2) 日頃の学習成果を試すために定期考査を行い、レベルアップを図る。

5 成績評価

以下の4点を総合的に評価する。

- (1) 定期テスト・・・学期ごとに中間考査・期末考査を実施する。
- (2) 小テスト等・・・授業で適宜実施し、計画的な学習であるか、理解しているかを確認する。
- (3) 提出物・・・授業の進度に応じ、自宅学習として課したものや、長期休業中（夏季・冬季）の課題について提出させる。
- (4) 授業態度・・・参加の意欲、毎時の取組状況、発問などの主体的な姿勢を評価する。

定期テスト 50%	小テスト 10%	提出物 20%	授業態度 20%
--------------	-------------	------------	-------------

6 その他（履修上の注意）

- (1) 教科書、ファイル、筆記用具（ノート、鉛筆、赤ペン、定規、マーカーなど）、計算用具（電卓）の準備をきちんとすること。
- (2) 欠席した場合は、その時間の学習内容とプリントや課題の有無を、次時まで各自で確認すること。

7 観点別評価の趣旨

評価の観点・内容		評価の方法
関心・意欲・態度	管理会計に関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して意欲的に取り組むとともに、管理会計から得られる情報を活用する態度を身につけている。	・観察 ・授業態度 ・提出物
思考・判断・表現	管理会計における各種の計算・分析方法や原価情報の活用などについて、なぜ、そのように行うのかなど自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身につけている。	・観察 ・練習問題 ・小テスト等 ・定期テスト
技能	管理会計における各種の計算・分析方法に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、管理会計から得られる情報を的確に活用することができる。	・観察 ・演習問題 ・小テスト等 ・定期テスト
知識・理解	管理会計に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、管理会計の基礎理論及び基本構造について理解している。	・観察 ・演習問題 ・小テスト等 ・定期テスト

8 学習指導計画

月	学習内容	時間	指導の目標	評価方法
4	第1編 管理会計の基礎 第1章 管理会計の意義と目的 1. 管理会計の発展経緯 2. 管理会計の目的 3. 財務会計と管理会計	3	○ 20世紀初頭からの管理会計の発展経緯を紹介する。 ○ 管理会計の目的および二つの大きなプロセスを理解させる。 ○ 財務会計と管理会計の基本的な相違点を整理する。 ○ マネジメント・コントロール・システムの意味を理解させる。	・観察 ・単元テスト ・練習問題
	第2章 管理会計と原価計算 1. 管理会計と原価計算の関係 2. 管理会計に有用な原価情報	3	○ 管理会計と原価計算の関係について整理する。 ○ 変動費と固定費の意味、さらに管理可能費と管理不能費について理解させる。	
5	第2編 直接原価計算 第3章 直接原価計算 1. 利益計画と直接原価計算 2. 直接原価計算の特徴 3. 全部原価計算と直接原価計算 4. 固定費調整 5. セグメント別の損益計算	6	○ 利益計画と直接原価計算の関係について確認する。 ○ 直接原価計算の特徴について整理する。 ○ 全部原価計算と直接原価計算による損益計算書を作成させる。 ○ 固定費調整の意味と方法について理解させる。 ○ セグメント別の損益計算について説明する。	・観察 ・単元テスト ・練習問題 ・定期テスト
	第4章 直接標準原価計算 1. 直接標準原価計算の意義と特色		○ 直接標準原価計算の意義と特色について理解させる。	
6	2. 直接原価標準の設定 3. 直接標準原価計算における差異分析 4. 直接標準原価計算による損益計算書	7	○ 直接原価標準の設定について説明する。 ○ 直接標準原価計算における差異分析の方法に習熟させる。 ○ 直接標準原価計算による損益計算書を作成させる。	・観察 ・単元テスト ・練習問題
	第3編 短期利益計画 第5章 短期利益計画と原価予測 1. 原価予測とは 2. 原価分解 3. 原価分解の方法	2	○ 原価予測の意味を理解させる。 ○ 原価分解の意味を理解させ、その方法について習熟させる。	
7	第6章 CVP分析と損益分岐点 1. 短期利益計画におけるCVP分析の役割 2. 損益分岐点と利益図表 3. 損益分岐点販売量と損益分岐点売上高の計算 4. 安全余裕率 5. 目標利益の達成に必要な売上高の計算	6	○ 短期利益計画におけるCVP分析の役割について理解させる。 ○ 損益分岐点の意味を利益図表を用いて理解させる。 ○ 損益分岐点販売量と損益分岐点売上高の計算について習熟させる。 ○ 安全余裕率および目標利益の達成に必要な売上高の計算について習熟させる。	・観察 ・単元テスト ・練習問題 ・定期テスト
	第7章 感度分析 1. 感度分析の意義 2. 感度分析の進め方	3	○ 感度分析の意義とその進め方について理解させる。	
9	第8章 最適セールス・ミックスの決定 1. 最適セールス・ミックスと利益の最大化 2. 制約条件が一つの場合の最適セールス・ミックスの決定 3. 制約条件が複数の場合の最適セールス・ミックスの決定	7	○ 最適セールス・ミックスと利益の最大化について説明する。 ○ 制約条件が一つの場合の最適セールス・ミックスの決定の仕方について理解させる。 ○ 制約条件が複数の場合の最適セールス・ミックスの決定の仕方について理解させる。	・観察 ・単元テスト ・練習問題
	第4編 企業予算 第9章 企業予算の編成 1. 予算編成と予算統制 2. 企業予算の体系と種類 3. 予算期間と予算管理の支援部門 4. 企業予算の編成プロセス 5. 損益予算の編成 6. 財務予算の編成 7. 見積損益計算書と見積貸借対照表	8	○ 予算編成と予算統制の意味について説明する。 ○ 企業予算の体系と種類について説明する。 ○ 予算期間と予算管理の支援部門について説明する。 ○ 企業予算の編成プロセスの概要を説明する。 ○ 損益予算・財務予算の編成について習熟させる。 ○ 見積損益計算書と見積貸借対照表の作成に習熟させる。	
11	第10章 予算統制 1. 予算統制の意義 2. 予算実績差異分析 3. 資金運用表の利用 4. 予算報告書の作成と利用 5. 予算統制のタイミング	6	○ 予算統制の意義について説明する。 ○ 一連の予算実績差異分析の方法に習熟させる。 ○ 資金運用表の利用および予算報告書の作成と利用について説明する。	・観察 ・単元テスト ・練習問題
	第5編 経営意思決定と管理会計 第11章 経営意思決定の意義とタイプ 1. 経営意思決定の意義 2. 経営意思決定のタイプ	3	○ 経営意思決定の意義について理解させ、経営意思決定のタイプを説明する。	
12	第12章 関連原価分析 1. 関連原価と無関連原価 2. 関連原価分析の特徴 3. 代替案の評価 4. 関連原価分析の留意点	4	○ 関連原価と無関連原価の意味を説明し、関連原価をタイプ別に理解させる。 ○ 代替案の評価について、各種決定問題の例題をとって習熟させる。	・観察 ・単元テスト ・練習問題 ・定期テスト
	第13章 設備投資の経済性計算 1. 設備投資の経済性計算の意義 2. 設備投資のタイプ 3. 設備投資と長期利益計画 4. 設備投資の経済性計算の方法(1) 5. 設備投資の経済性計算の方法(2) 6. 複数の代替案が存在する場合の経済性評価	5	○ 設備投資の経済性計算の意義について理解させる。 ○ 設備投資のタイプを紹介し、長期利益計画との関係を指摘する。 ○ 各種の設備投資の経済性計算の方法について、例題をとって習熟させる。	
1	第6編 戦略的原価計算 第14章 活動基準原価計算 1. ABCの意味 2. ABCの基本構造 3. 活動基準原価管理	3	○ ABCの発展経緯とその基本構造を説明し、例題をとって習熟させる。 ○ 活動基準原価管理を説明し、例題をとって習熟させる。	・観察 ・単元テスト ・練習問題 ・定期テスト
	第15章 品質原価計算 第16章 ライフサイクル・コストニング	2	○ 品質原価計算の意義を説明し、各種品質原価について理解させる。 ○ ライフサイクル・コストニングの意義を説明する。	
	合計	70		